

## 平成28年度 事業計画

### 基本方針

急速に進む少子高齢化のなかで、社会の活力を維持し地域を支える担い手として、高齢者に対する期待は、ますます高まっています。

先般の第189回国会の総理大臣の施政方針演説の中で、「高齢者の皆さんに、多様な就業機会を提供する。シルバー人材センターには、更にその機能を発揮してもらいます。」とセンターへの役割に期待を寄せられています。

超高齢化社会に突入した今日、地域の労働力不足や社会保障費の増大など数多くの懸案事項が浮き彫りとなってきました。また、平成27年度に行われた国勢調査の結果、初めて日本の人口が減少したことが報じられました。

「当町では、平成22年時の18,535人から平成27年17,582人、953人減(約5.1%減)となっています。」特に地方を中心に人口減少が深刻化している状況が見られ、全国896自治体のうち、このままの状態で行くと2040年時点では、人口1万人を切る市町村が243自治体(全体27.2%)になるとも推計されています。

国では、人口減少対策の一環として、地方創生への挑戦・一億総活躍社会への挑戦を掲げています。私たちシルバー世代にしても、従来の福祉を受ける立場から社会を担うべき活躍する世代へと意識変革が求められ、今まで以上にお互いが助け合うことが必要な社会となっています。

今後、高齢者が健康で意欲と能力のある限り、年齢に関係なく働き続ける「生涯現役社会」を実現し、社会参加をすることが求められています。

シルバー人材センターは、高齢者が自ら培った知識や経験を生かし地域に貢献したい、社会参加を通じて地域で元気にいきいきと活動したいという高齢者の受け皿として、社会的役割はますます高まっています。

こうした状況の中で、意欲と能力に応じた就業機会の確保・提供と意欲ある会員の確保を図る事が喫緊の課題となっています。また、今後確実に訪れる高齢化の波は、シルバー事業への活動そのものに支障をきたすことが考えられます。

如何にして、シルバー事業の安定経営と持続性を保っていくか、知恵を出し合い、対策を今から講じる必要があります。

平成28年度は、当センターが公益社団法人に移行し5年目の節目を迎えます。

将来を見据えた「中長期計画」を策定し、公益社団法人として確実な運営に努めるとともに、地域に根ざした活力あるセンターとして、会員が「自主・自立、共働・共助」

の基本理念のもと地域社会への貢献を目的とした事業展開を図っていくこととします。

## 平成28年度 事業実施計画

### 1【新規】 中長期計画の策定

- ① 平成28年度は、当センターが公益社団法人に移行し5年目の節目を迎えます。現状を踏まえ、将来を見据えた「中長期計画」(現状分析・将来予測・目標値の設定)を策定し、公益社団法人として確実な運営に努めるとともに、地域に根ざした活力あるセンターとして、会員が「自主・自立、共働・共助」の基本理念のもと地域社会への貢献を目的とした事業展開を図っていくこととします。

計画期間 平成28年度から平成30年度までの3ヵ年計画とします。

### 2 会員数の増強と就業率の向上

- ① 会員数は、シルバー事業を推進していく上で根幹をなしており、活性化を図る上で不可欠です。働く意欲のある方が安心して入会できるよう環境整備に努めます。
- ② 会員による「一人1名勧誘」運動を展開します。
- ③ 広報紙や新聞等利用した宣伝、広報活動を行う。
- ④ 会員の皆さんが、より多く就業できるよう、就業開拓に努力すると共に積極的にローテーションを推進して、就業機会を確保し就業率の向上に努めます。

### 3 普及啓発活動の推進

- ① 社会に対しシルバー人材センター事業の目的や仕組み、活動状況を広く紹介し事業の普及拡大、会員確保を行う。
- ② 公共施設の清掃、「ゴミ拾いボランティア」等の奉仕活動を行う。
- ③ 10月の「シルバー普及強化月間」を中心にシルバーの活動を宣伝する。

### 4 就労機会の拡大と提供

- ① 地域社会が求める就業情報の分析を行い、新規就業の開拓、継続契約の確保拡大に努めます。
- ② 高齢者向けの家事、清掃等一般家庭からの受注拡大に努めます。
- ③ 顧客からのハガキによる作業依頼の予約制を活用し、効率的な就業に努めます。
- ④ 派遣事業、職業紹介事業の充実に努めます。
- ⑤ お客さんの要望に丁寧で誠実な仕事を行い、会員さんと事務局が力を合わせ就業拡大

に努めます。

## 5 安全・適正就業の推進

- ① 安全就業は、シルバー人材センター事業の原点であり、常に「事故ゼロ」を目指します。
- ② 安全委員会による、安全管理の推進とパトロールを定期的実施し、安全管理意識を高めます。
- ③ 作業機器の点検を行い、機械作業については、ヘルメット、安全ベルト、立て看板の設置など事故防止に努めます。
- ④ 就業時だけでなく、就業途中における交通事故防止や健康管理に留意するよう会員の意識高揚に努めます。

## 6 技術、技能講習の推進

- ① 技術、技能を必要とする職種については、研修、講習会等を実施して技術の向上を図ると共に、会員の育成に努めます。
- ② 発注、利用者等に満足いただけるサービスの提供を図るため、会員や職員の接遇研修を実施し資質の向上に努めます。

## 7 会員同士の交流の活性化

- ① 互助会と連携を図りながら、各種活動に会員の積極的な参画を促し、会員同士や事務局との情報交換に努めます。
- ② 高齢者の健康の源は、適度の運動と人との触れ合い(交流)であり、会員の意見を取り上げた行事を企画し、会員の活性化に努めます。

## 8 持続可能な組織体制

- ① シルバー人材センターの基本理念である「自主、自立・共働、共助」の実践に向けて、会員参加の自主組織である総務、業務安全、就業開拓、普及啓発委員会等の組織活動の活性化に努めます。
- ② 公益法人として、諸法令を遵守し、諸経費の節約を図り事業の健全経営に努めます。
- ③ 各種研修に参加して、常に最新情報を得て様々な事業展開に対応できるように努めます。